

秋の強化月間、各地域で旺盛に班会などが行われています

北山・東山支部



「いつでも元気」読者交流会を開催し、12名の参加で、購読者が1名増えました！本の感想や楽しみなことなどを参加者で交流し、楽しい時間でした。

諏訪山地域



健康友の会・自治会・社協と合同で、健康座談会を開催し、みどり病院の管理栄養士・理学療法士・地域の音楽療法士の方が講師となり29名の参加となりました。

関支部



こがねだ診療所で「健康保険証をなくさないで」署名を役員と職員で実施し、23筆集まりました。「マイナ保険証は個人情報がかかっているから危険だ！」とみなさん署名をしてくれました。

岩野田支部



公民館で、高齢者向け岐阜市いきいき筋トレ体操を行い、毎回多くの参加者となり、地域全体で健康づくりをしています。

各務原支部 おとこぐみ班



介護保険相談センターすこやかのかケアマネジャーを講師に、介護保険について班会を開催しました。

長良支部



ながら梅子の家にて、夏休み子ども食堂を開催し、延べ14日間で481名(32家族)の参加で、ボランティアは123名となりました。

今年もモルック大会を開催します

開催日: 11月20日(水)
 時間: 13時~15時
 場所: リフレ芥見(野外多目的ドーム)
 ※詳しくは 折込みチラシをご覧ください



多くの参加をお待ちしています!!

第16回 全日本民医連共同組織活動交流集会 IN 岡山

~あらたな担い手とともに、誰ひとり取り残さないまちづくりを~

先を9月21日の豪雨が襲い、奥能登全域に被害を広げました。奥能登健康友の会は、診療所とともに再び全日本民医連の支援を受け、緊急作業を進めています。心からのエールを送るとともに、災害募金、災害支援が必要だと



第16回全日本民医連共同組織活動交流集会が9月29日(日)~30日(月)に岡山市で開催されました。全国から1700名が集まり、各地の経験を交流しました。岐阜からは29名(岐阜健康友の会13名、高齢者施設をつくる会3名、西濃医療生協3名、職員10名)が参加しました。

1日目は、全体会が行われ、オープニングとして岡山商業高校生による書道パフォーマンスがあり、迫力ある動きと完成した文字作品に大きな拍手が送られました。特別報告として能登半島地震で支援活動に取り組んできた奥能登健康友の会から、報告がありました。元日発災の巨大地震による家屋の倒壊、道路の寸断、津波による被害の復旧が遅々として進まない中、全日本民医連の支援が2月末から開始され、友の会会員の安否確認、要望把握の地域訪問を進め、4月末まで、対話訪問と片付け支援を行ってきました。その矢

と痛感しました。記念ライブとして、「テレビで会えない芸人」松本ヒロさん(元「ザ・ニュースペーパー」メンバー)の迫力ある話芸に感動の連続でした。とりわけ「憲法前文」は圧巻と言えるものでした。

二日目は、「まちづくり」「居場所づくり」「健康づくり」「憲法九条・平和を守る取り組み」など7分科会、25会場に分かれて、経験交流を行い、岐阜での取り組みを6演題報告しました。また、「ハンセン病療養所長島愛生園見学」「朝日訴訟の地を巡る」動く分科会も開催され、参加者が学習を深めました。

九月の全国共同組織活動交流集会が岡山県で開催されたことから、国立療養所長島愛生園を見学する機会がありました。ハンセン病についても何の予備知識もない参加でした。▼長島という小島全体が愛生園の敷地であり、昭和五年に創立されたから、急増する隔離患者のために、また園内で結ばれた夫婦のための十坪住宅のような建物も建てられました。しかし、ハンセン病は「優生保護法」の対象疾患であり断種手術が行われてきました▼ハンセン病は、抗酸菌の一種(明治六年ノルウエーの医師ハンセンによって発見)によって引き起こされる慢性的感染症で、皮膚と抹消神経が侵されます。感染力は弱いのですが、熱さや痛みを感じる事ができず、火傷や足裏にものが刺さっても気づかずに、重症化し、また失明することもあります。現在ではハンセン病の治療方法が確立され、療養所入所の方は完治しています。▼昭和十一年「文学界賞」を受賞した北条民雄の『いのちの初夜』は、ハンセン病の青年が療養所に入所する、その一日と夜の体験を描いています。絶望のなかでも、そこに命の輝きがあり、新たな復活があるのだと。社会的人間としての死と、そのさきの新たな復活の思いを描いています▼これまで知ることのなかった、そうした患者たちの人間としての生きざまと、それを強制してきた歴史(らい予防法と隔離政策)をもっと知りたい、いえるべきだと思っています。(K)